

第5回大町ダム等再編事業 事業監理委員会審議結果

1. 日 時：令和6年6月19日（水） 13：30～14：30

2. 場 所：千曲川河川事務所 2階 会議室

3. 審議結果：

（1）大町ダム等再編事業の概要

- P5の事業進捗状況に関して、「表中の▼」と色塗りの違いについて説明いただきたい。
⇒着色部分は予算の進捗を表している。一方で、「表中の▼」は作業の進捗を表している。
- 大町ダム等事業再編後の高瀬・七倉ダムの1,200万 m^3 は、洪水調節容量として譲渡を受けているということでしょうか。
⇒洪水調節容量1,200万 m^3 については、東京電力PR(株)と譲渡契約を締結し、既に譲渡を受けている。

（2）事業の実施状況について

- P12の事業効率化の事例として道路路盤の盛土への活用事例がある。長野県としても道路事業等において、土砂を有効活用させていただきたい。
⇒関係者と協議の上、発生土砂を流域のために活用できるよう取り組みを進めていく。
- トンネル工事の着工が1年遅れると聞いている。大町ダム等再編事業の完了が遅れる可能性について教えていただきたい。
⇒現時点では、予定通りの事業の完了を見込んでいる。
トンネル工事については、事前の地質調査結果を踏まえた施工するが、事前の調査では把握しきれない地質状況に遭遇する可能性もあるため、引き続きコスト縮減や効率化を図り、着実な事業進捗に努めていく。

- 大町ダムの水道容量67万m³については、洪水調節容量として、有償で譲渡を受けるということでよいか。

⇒水道容量67万m³については、今年度中に高瀬広域水道企業団と協議を行い、有償で譲渡を受ける予定である。

- 大町ダム等事業再編前に大町ダムが有している洪水調節容量2,000万m³は、どこからか取得したものか、それとも容量振り替えか、教えていただきたい。

⇒大町ダムは、ダム建設当初より2,000万m³の洪水調節容量を有している。事業再編後には、水道容量67万m³を振り替え追加して、合計2,067万m³の洪水調節容量とする計画である。

- 現在の社会情勢としては、物価上昇、金利上昇、円安と事業費を引き上げる予想が多い状況である。事業費が膨らまないよう努力されているが、注意していただきたい。
(意見)

- 労務費等のコストが上がることある程度見込んで予算を設定しているのか教えていただきたい。

⇒現行の事業費は、計画当初の労務単価を基準に算出している。引き続き事業効率化やコスト縮減に努めるが、当初事業費での対応が難しい場合は、適切な時期に事業費の見直しを検討する必要があると考えている。なお、最近になって物価上昇等の不確定要素を見込んで事業計画を策定する動向があるが、本事業の計画策定時(令和2年)においては、そういう計画手法は導入されていなかった。

- 希少猛禽類への影響はでていないか教えていただきたい。

⇒昨年度の委員会で報告したとおり、不動沢ではなくて別の場所で希少猛禽類の繁殖活動が確認されている。現在、工事は反対側の籠川周辺から着手しており、不動沢付近は未着手であるため、大きな影響は生じていない。引き続き、有識者と意見交換を行いつつ、モニタリングを継続する。

- 工事により水が枯れてしまい、地元住民とのトラブルで工事が停止するといった事態が起きないように、地元住民とのコミュニケーションは図っているか。

⇒トンネル工事の着手前に地元説明を実施済である。環境調査も継続的に実施しており、仮に異常が確認された場合は、速やかに大町市や地元関係者と協議の上、適切に対応していく。

- トンネルの工事を進める上で懸念される、もろい地質や水の吹き出しについては、事前の地質調査では確認されてないため、想定はしていないということよいか。

⇒事前の地質調査では確認されていないものの、実際の施工にあたっては地質状況を確認しながら進め、異常発生時に即応できるよう施工業者と調整済みである。また、補助工法等も想定した施工計画を策定しており、想定範囲内の地質不良や湧水等であれば問題なく対応できると考えている。

- 施工管理上は想定しているが、予算上は想定していないということよいか。

⇒そのとおりである。

- 昨年の委員会から1年間での予算ベースの事業進捗が早い項目がある。1年で一気に事業が進むものなのか教えていただきたい。

⇒本資料における予算ベースの進捗は、工事等を契約した段階で執行済として計上しているためである。

- 大町ダム等事業再編後の高瀬・七倉ダムの洪水調節容量1,200万 m^3 とあるが、大町ダム等再編事業前の高瀬・七倉ダムの予備空虚容量764万 m^3 との関係を教えていただきたい。予備空虚容量は洪水調節容量の内数となるのか。

⇒事業再編前の予備空虚容量764万 m^3 は、高瀬・七倉ダム設置に伴うピーク流量増加を相殺する「遅れ操作」を行うため、発電容量の内数として確保されていた。事業再編後は、新たに取得した1,200万 m^3 の洪水調節専用容量のなかで遅れ操作も実施する運用へ移行したため、予備空虚容量としての扱いや記載はなくなった。

- 現状の社会情勢を踏まえると事業費が膨らむことが明らかである。今後予定される事業再評価を踏まえて、予算を見直しは予定されているのか教えていただきたい。

⇒事業費の見直しについては現在検討中であるため、事業評価は、当初事業費をベースに実施する予定である。今後、事業費の見直しが必要になった場合は、適切なタイミングで改めて事業評価を実施する方針である。

- 事業が遅れないことも重要である。適宜適切なタイミングで予算を確保し、概ね工程どおり事業が進むよう適切な管理をお願いしたい。（意見）